

第4回 SC サテライト放送株式会社 番組審議委員会 議事録

1. 開催日時： 平成 28 年 12 月 2 日（金）13 時 00 分～14 時 30 分
2. 開催場所： リバーゲート 11 階
3. 審議委員出席者：
委員総数 7 名（出席委員 7 名）
出席委員の氏名 音好宏氏（委員長）、入江たのし氏、五井千鶴子氏、棚橋節子氏
桧山珠美氏、細川幸一氏、万場徹氏
4. 事業者側出席者：
SC サテライト放送株式会社
代表取締役社長 佐々木良太
取締役 上原宏一

ジュピターショップチャンネル株式会社
プランニング&プログラミング本部 プログラミング部長 宇都宮貴吉

日本テレビ放送網株式会社
事業局有料放送事業部 局次長 兼 有料放送事業部長 柴田哲志
報道局マルチニュース制作部 担当部次長
「日テレNEWS 24」プロデューサー 藤井潤
5. 番組編集基準の変更
激しい光点滅の映像によって健康被害が生じる事例を受け、当社では以前より光点滅に関する運用上の対応は行っているものの、公表している当社番組編集基準で明文化されていないため、追記するもの。具体的には、「細かく点滅する映像や急激に変化する映像手法などについては視聴者、特に児童や青少年の身体への影響に十分配慮する」という一文の追記。諮問の結果、全委員による承認を得る。
5. 番組審議
(1) SC サテライト放送株式会社で放送するチャンネルの審議
① 「ショップチャンネル」(055ch)
a. 審議番組：
「これぞ職人！匠の技 漆の輝きから生まれるジュエリー 坂本これくしょん」
b. 放送日時： 2015 年 9 月 28 日（水） 21:00～22:00
c. 番組概要： 卓越した技術と妥協知らずのこだわりを持つアイテムを紹介する企画。今回は伝統の会津塗りを生み出す、福島県会津若松市で創業した坂本乙造商店の 3 代目である坂本理恵さんがご自身で使用したいデザイン・クオリティを追求した作品を紹介。

審議委員意見ならびに事業者側回答

「坂本これくしょん」がどういうものかという説明がなく番組が始まったので、コレクションというのが、商店が作っているものなのか、または店主が興味があつて集めたセレクトショップ的なものなのか、最後までよくわからなかった。

番組内での「あの坂本これくしょん」というコメントにもみられるとおり、どうしてもいつもの視聴者へのご案内が多くなってしまうように感じる。初めて見たお客様にどのような番組か伝わるよう、注力していきたいと考えている。

番組内の説明において、カーディガンの素材や洗濯方法の口頭での案内があつたが、2016年12月1日の洗濯表示変更に伴い、消費者にとっては見慣れない絵表示が多いことから、画面の端でもかまわないので、表示があるとよいと感じた。

画面スペースの都合もあるため、放送においては口頭やフリップを用いた説明を行い、一方、webでは洗濯表示を行っていったらと思う。

漆器という日本独特のもので、かつ地方の名産品にスポットをあてたのは、地方創生含めてすばらしい。見せ方も丁寧であつた。

カーディガン紹介時、インナーの色を違えて組み合わせた見せ方はとてもよいと思った。なお、ゲストが自らの身長を話すことによりサイズ感が伝わりよいと思ったので、様々な身長のモデルを準備するとよいと思った。

今回はインナーコーディネートを紹介したが、通常の番組ではモデル着用等も行っている。様々な着こなしを提案できるのがテレビのよさであると思う。普段は司会者も自身の身長を伝え、洋服のサイズ感が伝わるようにしている。

工程の紹介が非常にわかりやすいと感じた。実際の制作現場にいかないと知りえないことなので、視覚に訴えるのはよいと思った。番組内で「ウェイトリスト」という単語が出てきたが、初めて見た人には、どのようなものかわからない。

ウェイトリストとは、2016年9月より新たに展開しているサービスであり、従前はキャンセル待ちという表現で行っていたサービスの役割をかえたもの。追加の商品手配等で商品の用意が整った場合、少し時間をあけてお届けするサービス。現在もVTR等で告知しているが、今後もwebや番組ガイド等を用い周知していきたい。

今回の番組と、通常番組との違いがなかなか理解できなかった。特別感を出す工夫が必要では。「坂本これくしょん」といわれて、わかる人にはわかるのであろうが、説明不足であると感じた。

他の番組も然りだが、初めて番組を視聴した方への説明が浸透しきっていないと感じている。ブランドコンセプト等含め、しっかり説明していきたいと思う。

坂本これくしょんがどのようなものなのかわかりづらい。「ショッピングチャンネル」は、視聴者を限定せずオープンにしているので、いつもの視聴者と新たな視聴者との情報量の差を何らかの形で補足すると、新たな視聴者も番組に入りやすいのではと思った。

②「日テレNEWS24」(349ch)

- a. 審議番組：「デイリープラネット」
- b. 放送日時： 2015年9月6日(火) 20:00～21:00
- c. 番組概要： きょう起こった事件・事故の続報から、政治の動き、経済の話題、海外の情報まで、その日の夜の最新ニュースをお送りする番組。各業界のフロンティアを招きビジネスのコツを聴く「飛躍のアルゴリズム」コーナーにはコンビニ大手・ローソンの玉塚元一社長が登場。

審議委員意見ならびに事業者側回答

飛躍のアルゴリズムは、地上波でもなく、また新聞や雑誌のインタビューでもないのに、もう少し尖った質問があってもよかったのでは？そのような質問があると、番組がさらに目を惹くものになるのではと思った。

ご指摘のとおり、この回ではもう少し突っ込んだ質問をした方がよかったのではという思いがある。飛躍のアルゴリズムでは、キャスターの他に、記者等が聞き手として出演しゲストに質問するスタイルで展開しているが、回によっては、ベテラン解説委員が突っ込んだ質問しているものもある。

ブッキング次第だとは思いますが、飛躍のアルゴリズムに、人気CMのコピーを書いたCMのクリエイター等をゲストとして出演させることで、このコーナーがより楽しくなるのでは。ゲストの本音が出てくると得した気分になるので、打ち合わせはそこそこにし、本番で丁々発止のやり取りをしてほしい。

飛躍のアルゴリズムはまさにブッキング命のコーナーであり、苦勞する部分もあるが、地上波ではなかなか話を聞けない方をお招きできるよう画策している。また、今後もできるだけゲストの本音を引き出すことを心がけていきたい。

なお、デイリープラネットの視聴者には30・40代の男性が多いことから、ビジネスのヒントにしてもらえるものにしたい、という思いがありこのコーナーを立ち上げた経緯がある。20分あるこのコーナーを、5分程度に分割しHP上でも掲載し、翌朝以降スマートフォンでも視聴できる環境を整えている。

番組中に流れるテロップに、「文化・芸能」のジャンルがあるものの、芸能ニュースが多く、文化に関するニュースがほぼなかったが、ニュースの選び方としてはどうなのか。

また、天気予報で県庁所在地ではない地名が出ているが、それはなぜなのか。

視聴者の中には、芸能ニュースに関心のある方もいるが、N24のニュースの中ではお届けできないため、テロップで流している。2017年3月下旬から4月にスタジオ・サブの大規模改修が完了した暁には、自然災害の際はテロップから文化・芸能に関するテロッ

プを外す等の運用も検討している。

天気予報の地名は、気象庁の観測点である。それぞれの観測点が近くなならないよう、日本全国まんべんなく観測できるよう指定されている、

飛躍のアルゴリズムが生放送であることを認識していなかったが、ゲストが名言を吐いた際に、活字でテロップで出るとよいと思った。

生放送なので、名言そのままを活字で表示するのは難しいが、事前の打ち合わせの際にゲストが繰り返し話すキーワード等を出来る限り番組の中で表示し、視覚的に訴える工夫はしてみたい。番組内でフォローできない場合は、HP等でキーワードを掲出する等、目を惹くような形を取ることで、改めて視聴していただける工夫をしていきたい。

ボリュームの関係かもしれないが、はしか感染のニュースの際に木琴のような音が流れており、ニュースが聞き取りづらく、少し耳障りに感じた。

災害ニュースにおいて、川の水位の変化が捉えられていて、自然の凄さを感じることができ、これが映像でニュースを伝えることができるテレビの良さだなと思った。

地図や文字の映像が多く、説明調になりがちな際に、テンポよく見せるための演出手法として、BGMを入れることがあり、他局でもよく取り入れられている。ただし、そこにセンスも必要になると思うので、留意していきたいと思う。

災害については、最近よく取り入れられている、スマートフォンで撮影した映像を使う手法も活かしながら、今後も災害については警鐘を鳴らしていきたい。

日テレ NEWS24 は視聴率の調査対象なのか？対象の場合何%なのか？有料契約のチャンネルなので、視聴率ではなく、契約数の概念なのか？

接触率等、参考値になるものはあるが、いわゆる視聴率そのものはない。単チャンネル加入者の件数等もあわせて、チャンネル・コンテンツの評価指標として用いている。

報道のスタジオとデイリープラネット（今回の審議対象番組）のスタジオは異なるフロアなのか？

報道スタジオとデイリープラネットのスタジオは別のフロアにある。同時時間帯にキャスター2名をそれぞれのフロアにスタンバイさせて、通常は、デイリープラネットのスタジオで展開しつつ、何か大きなことがあれば、報道フロアで展開する、いわゆるダブルスタンバイの形をとっている。